

多様な生きものとお米を同時に育む「コウノトリ育む農法」を拡大、推進

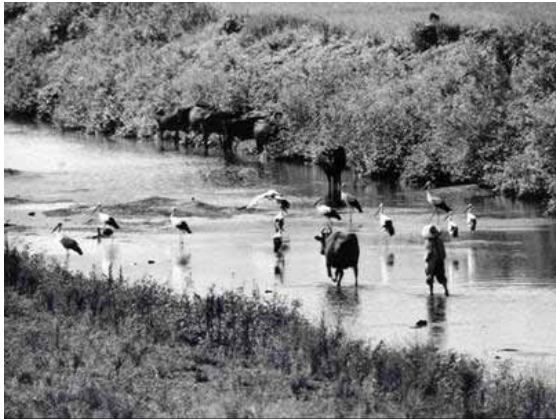
4. 豊岡盆地及び周辺地域【兵庫県豊岡市】

範 囲	兵庫県の北部に位置する豊岡市、豊岡盆地、円山川およびその支流域	
所 在 地	兵庫県豊岡市	
生 物 地 理 区 分	コナラ林(西日本)	
環 境 要 素	二次林、水田、小川・水路(◎)	
自然条件	地 形	豊岡盆地は 200～400mの山に囲まれた盆地で、中央部を円山川が流れ日本海に注いでいる。円山川は中流域から河口までの高低差が少なく、流域にはヨシ原や河畔林が広がっている。
	植 生・生物等	円山川に沿って湿地や田んぼ、中洲、里山などが発達しており、円山川の水辺は水生植物、野鳥、魚など野生動植物の宝庫である。市内には、国の特別天然記念物、コウノトリとオオサンショウウオが生息する。豊岡では、多様な自然環境とコウノトリを大切に扱う風潮があったため、コウノトリの国内唯一の生息地として残っていた。一度は絶滅の時を迎えたが、昭和 30 年代以降、官民一体となった保護活動が展開され、現在では野生復帰の取組みにより 40 羽を超えるコウノトリが野外に生息している。
社会条件	人口(市町村)	85,607 人(農家率 17.6%、副業的兼業農家が多い) ※豊岡市のデータ(H22年)
	土 地 利 用	市総面積の 7.5%が田畑、79.3%が山林である。 ※豊岡市のデータ(H22年)
	歴 史・文化	豊岡盆地には、古くから文化が栄え、縄文・弥生時代の遺跡も多く、豊岡の歴史はそのまま円山川とともに歩んできた。円山川は、古くから水運が盛んであり、古代には地方豪族の大陸交易に利用され、江戸時代には高瀬船・屋形船など船運が全盛となり、豊岡市は兵庫県北部の経済の中心となった。 さらに、円山川のもたらす湿地と肥沃な土はコリヤナギの育成に適しており、江戸時代には、これを原料とした杞柳(きりゅう)産業が栄え、その後、鞆産業へと発展した。
法 指 定、行 政 による 評価の状況	自然環境・景観保全や国土保全に関わる地域指定等	
	すぐれた自然、景観、伝統文化などとしての選定	「日本の重要湿地 500」に選定(H9) 農水省、農村環境整備センター「田園自然再生コンクール 農林水産大臣賞」受賞(H15) 朝日新聞社、(財)森林文化協会「にほんの里 100 選」に選出(H21) ほか



撮影時期：2009年5月13日
田植え直後の水田でのコウノトリ

豊岡盆地及び周辺地域				
取組主体	タイプ	連携組織: 指標種となるコウノトリを核とした多様な主体の連携組織による取組		
	主な主体	名称	概要	
豊岡市・兵庫県・JAたじま・生産者「コウノトリの舞」ブランド農産品生産団体 コウノトリ市民研究所、 コウノトリ湿地ネットなど		低農薬、無化学肥料での農生産 市民団体主催の自然観察・田んぼの学校等		
経緯	コウノトリ野生復帰の取組の進展とともに、コウノトリが野外で生息できる環境を保全するため、環境創造型農業の取組が行われるようになってきた。 湿地の食物連鎖の頂点に立つコウノトリも住める環境は、人間にとっても素晴らしい環境であるに違いないという信念のもと、できるだけ農薬や化学肥料に頼らない「コウノトリ育む農法」が行われており、平成15年に0.7haだった作付面積が平成22年には219.5haに増えるなど、取組みが拡大している。			
支援措置	該当なし			
取組の目的・目標	豊岡市ではコウノトリの野生復帰をシンボルとして、人だけでなく、コウノトリも住める豊かな環境を創造し、市民の豊かな暮らしを実現することを目標におき、様々な環境施策を展開している。			
取組分野内容	農林業を通じた里山や草地の利用(管理)の維持・活性化	大型で肉食の鳥・コウノトリが野生で生息するのに必要なエサ生物を増やすため、生きものとお米を同時に育む「コウノトリ育む農法」の拡大や水路と水田をつなぐ「水田魚道」の設置、ビオトープ水田の設置等を、関係機関連携のもとで進めている。また、害獣による被害を抑えるとともに、生物多様性を保全する健全な里山を確保するため、里山の間伐と伐採木の有効利用を進めている。		
	バイオマスなど新たな資源としての利用	【対象となる資源】 樹木 木質バイオマス: 市内小学校等へのペレットストーブの配置、その燃料となる木質ペレットの地産地消に取り組んでいる。 菜の花: 菜の花から菜種油の搾油、給食への菜種油の利用、廃油をBDF化し、給食配送車に利用している。		
	環境教育や自然体験、エコツアーの場としての利用	自然観察会	田んぼの学校(1回/月)、野鳥観察会	
		環境教育・学習活動	豊岡市「生きもの共生の日(5/20)」授業(田んぼの生きもの調査など) コウノトリKIDSクラブ(市) 集まれ!コウノトリファン(県)	
		里地里山体験・環境保全	ENEOS わくわく生き物教室	
		農林業体験活動	田んぼの生きもの調査	
		エコツアー	貢献作業付ツアー(JTB、地球の歩き方など)	
		その他		
	野生動植物やその生息地の保全・管理	日本で一度は絶滅したコウノトリの野生復帰を進めるため、「コウノトリも住める自然環境と文化環境」の再生・創造を目指し、コウノトリの生息地保全の取組を進めている。その内容は、多岐にわたる。		
	地域の良好な景観の保全・修復	コウノトリが舞い降りるような田園の景観を阻害しないための景観条例を策定する予定である。		
里地里山の伝統的な生活文化の知恵や技術の継承	対象	生活行事	【文化財指定】	
		資源利用技術		
		その他		
	該当なし			
連携・協働	<ul style="list-style-type: none"> コウノトリ野生復帰の取組を体系的に進めるために組織されている「コウノトリ野生復帰推進連絡協議会」には、住民、行政、NPO、企業、専門家など様々な業種からの参画がなされている。 コウノトリ育む農法を拡大するため、豊岡市、兵庫県、農業者、JA等が連携して取組を進めている。 生物多様性を保全し、コウノトリの生息地拡大と野生復帰の取組を進めるため、「コウノトリ生息地保全協議会」を組織し、活動を行っている。 			



提供：富士光芸社（有）



撮影時期：1960年8月

市内を流れる出石川のほとりで撮影された写真。農家の女性と7頭の但馬牛、12羽のコウノトリが手を伸ばせば届くほどの距離にいる。当時、水田や川、人里で、大型の動物と人が共に暮らしていた。豊岡はコウノトリの野生復帰を通して、人と自然との共生に取り組んでいる。

撮影時期：2007年5月

平成17年のコウノトリ試験放鳥以来、コウノトリを暮らしの中に受け入れる環境づくりが進んできた。環境創造型農業の広がりとともに、水田にはエサとなる多様な生きものが戻り、エサをついばむコウノトリの姿が見られるようになった。

景観としての
利用・評価

コウノトリの保全を目指すことで、水田や豊かな里山等の自然環境の保全にも役立っている。この豊かな自然環境とコウノトリが織り成す農村景観を求めて、観光客が訪れるようになった。

取組の特徴

「コウノトリ」をシンボルとした新たな農法の拡大など、環境活動の推進が経済活動に結びついている。環境を良くする活動が経済を刺激し、経済が潤うことで環境を良くする活動がさらに広がりを持つといった「環境と経済が共鳴し合う関係」の構築を目指し、「豊岡市環境経済戦略」を策定（2005年3月）して具体的な取組みを進めている。

食物連鎖の頂点に立つコウノトリが野外で健全に暮らしていくためには、生息を支える豊かな「自然環境」と、コウノトリを暮らしの中に受け入れる「文化環境」の再生・創造が欠かせない。そのための様々な取組みが各主体のもとで輻輳的に展開されている。シンボルを持つことが取組みをわかりやすくし、また効果を確認できることが取組意欲の維持に効果的に作用している。

【参照資料】

豊岡市 HP (<http://www.city.toyooka.lg.jp/>)

水の郷百選HP (<http://www.mlit.go.jp/tochimizushigen/mizsei/mizusato/index.htm>)